子供たち一人一人の学ぶ力を育てる

うきしろスタンダード

学力向上の合言葉「まなびのめ」

- ㋮ まえ向きにあきらめず
- ㋤ なぜだろうと じっくり考え
- (び) ひろげよう 学んだことを
- ㋨ のびるコツは 予習・復習
- ㋱ めざそう真の 学力アップ

行田市教育委員会

行田市学力向上推進委員会

自己効力感アップにつながる励まし言葉

１　自己効力感とは？

◎『自己効力感』とは…

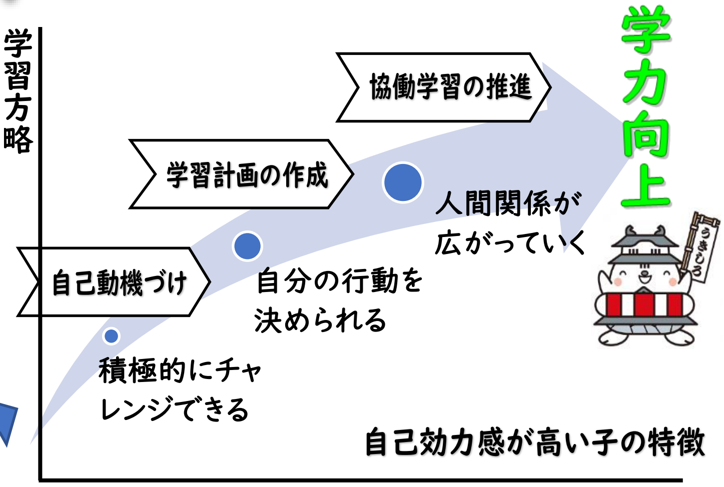
・何かの行為に対して「自分はうまくできる」という、自分の能力についての期待や自信・確信のような感覚のことを指します。

◎『自己効力感』と『自己肯定感』の違いは…

・自己肯定感は、「自分は価値のある人間だ」と自分の存在を認める気持ちのことです。

自己効力感の高さを学習方略に結び付けることで、学力の向上が期待できます。

２　自己効力感の高まりと学力の関係



３　自己効力感を高めるフレーズ・言葉がけ

①遂行行動の達成 「自らの力でやり遂げた実感」	②代理的体験 「他人の成功経験をインプットする」
□ あきらめずに最後までできたね	□ なぜできたのか A さんに聞いてみよう
□ 前はできなかったけれど、できるようになったね	□ A さんも〇〇したから成功したんだね
□ いろいろな方法を試したから成功したね	□ こんな考えを取り入れるとできるようになるよ
□ そんな考え方があるなんてすごいね	□ 〇〇を参考にして一緒にやってみよう
□ とてもいいところに気付いたね	□ このやり方をみんなに紹介するね
③言語的説得 「他者から褒められる・認められる」	**④情動的喚起 「心身の変化の受け止めとコントロール」**
□ やればできる　あなたならできるよ	□ 〇〇するときは緊張したけれど、がんばれたね
□ 〇〇してくれてありがとう、感謝しているよ	□ できることから始めてみれば大丈夫だよ
□ 〇〇さんのがんばりに拍手	□ まだ始めたばかりだから、諦めることはないよ
□ 〇〇している姿は、とてもすばらしいね	□ 自信をもってやってみよう
□ A さん（先生）があなたのことを褒めていたよ	□ 自分の好きな音楽を聴いて気分を高めよう

４　自己効力感を高める取組例

まごころの花束

月に１回、生徒間で感謝の気持ちを伝え合う。メッセージカードを花束状にして廊下等に掲示し、思いを共有する。

校内特別賞

よいこと・がんばったことなどに対してシールを渡し称賛する。シール１０枚で表彰し、写真を校長室等に掲示する。

ぽかぽか言葉

道徳の授業から発展させ、やさしい言葉がけや、励ます言葉である「ぽかぽか言葉」を教室等に掲示する。

論理的でわかりやすく、生き生きと学び合える教師の発問

全教科に共通した「発問のポイント」

・発問の意図を明確にしておく。
・発問に対する応答を予想しておく。
・発問の内容が1回で子供に伝わるよう、短く簡潔にする。
・発達の段階に応じた適切な言葉遣いで、手本となる話し方をする。
・「話す速さ、言葉の調子と抑揚、間の取り方、豊かな表情」を意識する。

なぜ～なのでしょう？

導入

「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を明確にする。

・なぜ～なのでしょう。
・なぜそう思ったのですか。
・本当にできるでしょうか。
・～は、全てにあてはまるのでしょうか。

「主体的な学び」の原動力にする
・課題提示の工夫　・ねらいを共有

展開

課題の追究・解決の見通しをもたせる。

・今まで学習したことで、使えそうなことはないですか。
・解決するために、どんな工夫ができそうですか。
・～は、どんな働きをするのでしょうか。　※見通しをもたせすぎずに、考える楽しさを！

「見方・考え方」を働かせるきっかけにする

課題の追究・解決に取り組ませる。（個人→ペア・グループ）

・どうやって考えましたか。
・もう少し詳しく聞かせてください。
・似ている考えを集めてみましょう。
・○○さんと△△さんの意見はどこが違いますか。

・自力解決の時間を確保
・視点を明確にした話合いで考えを広げ、深める

課題の追究・解決をより深める。

・○○と△△を比べて考えると、どうですか。
・～の視点から考えると、どうですか。
・言い換えると、どういうことですか。
・○○と△△をまとめると、どうなりますか。

教師からの問い返しによって考えを深める

終末

ねらいと対応して自分の言葉で振り返らせ、新たな学びへの意欲付けを図る。

・出た意見の中でどれが一番納得できましたか。
・まとめると、どういうことですか。

振り返りの充実

・今日の学習でわかったことは何ですか。
・日常生活に使えると思ったことはありますか。
・もっと調べてみたいことはありますか。

自身の学びを振り返り、次の学びへつなげる

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためのポイント

「個別最適な学び」と「協働的な学び」とは？

個別最適な学び

支援が必要な子供に、より重点的な指導を行ったり、特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行ったりする「指導の個別化」と、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する「学習の個性化」を充実させる。

協働的な学び

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら協働的な学びを充実させる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための ICT 活用

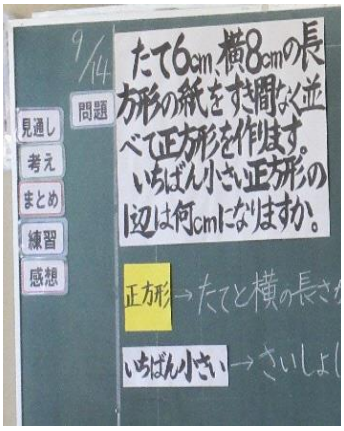
個別最適な学び	○個に応じた学習 ・デジタル教科書の提示 ・ドリルソフトでの復習 ・ヒントカード、ワークシートの提示→前時までの学習内容をタブレットに保存 ・家庭学習におけるデジタル教材の活用 **個に応じた重点的な学習** ○思考を深める活動 ・学習の過程や成果を写真、動画等で記録 ・デジタル教材のシミュレーション機能の活用 **最適な資料を活用した学習** ○調べ学習・表現活動 ・インターネットによる情報収集 ・動画等の記録から考察 ・写真、音声、動画など多様な表現を取り入れた資料、作品の制作 **一人一人の課題に応じた学習計画**
協働的な学び	○大型提示装置の活用 ・自分の考えを**提示**　→グループや学級全体に分かりやすく伝える ・制作した作品の**紹介**　→こだわりを細部まで全体に紹介する **発表・話合い** ○多様な意見の収集 ・グループや学級全体で複数の意見を**共有** （ホワイトボード / 写真 / Word / PowerPoint 等） **協働での意見収集** ○グループでの**共同編集** ・同時並行で制作　※他の人の考えを知ることができ、意図的な指名にもつながる ・学習のまとめとして写真、動画等を用いて資料、作品を制作 **一緒に創り上げる経験** ○学校外との連携 ・遠隔地や海外の学校、学校外の専門家等との**通信** ・意見交換や情報発信 **空間を超えた学習の場**

きちんと整理され、課題とまとめが明確な板書

授業の流れがわかる板書

＜算数・数学の例＞

①問題
②課題
③見通し
④考える
⑤交流
⑥まとめ
⑦練習
⑧振り返り



〈国語の例〉

①課題
②見通し
③考える
④交流
⑤まとめ
⑥振り返り

板書のポイント

1 板書は「情報共有の場」である

2 見やすい板書を心がける （子供たちにとっての手本）

①字の大きさと丁寧さ ⇒ 教室の端の子供にも見やすい

②記号や矢印等の工夫 ⇒ 視覚的にわかりやすい

（例）まとめ、重要…赤で囲む　課題…青で囲む　※ユニバーサルデザインに配慮

③箇条書きや図式化 ⇒ 見やすくわかりやすい

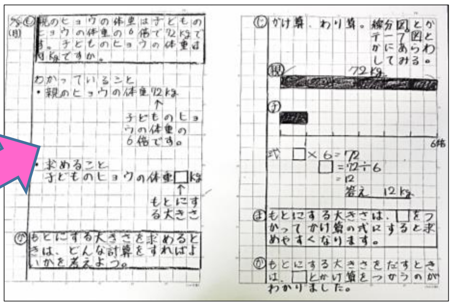
3「本時の課題」と「まとめ」をリンクさせる

4 事前に板書計画を立てる ⇒ 学習の可視化

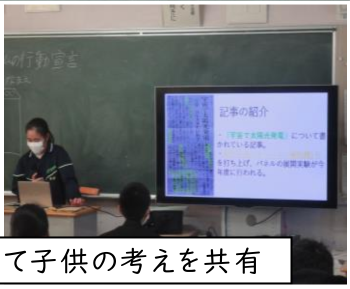
5 子供の意見や思考のプロセスを生かす

板書例・ICT活用例

ノートとリンク



動画で記録



大型提示装置を活用して子供の考えを共有

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

しっかり振り返り、やる気いっぱいの家庭学習

学習内容の定着・習慣化を目指して

学習課題を決める

①学習内容の振り返り
②習熟を図る
③知りたいことを調べる

めあてを書く

①授業の復習・予習
②反復練習(繰り返し練習)
③研究（調べる、まとめる）

学習の振り返りをする

・学習課題を決める
・日付、時刻を書く
（開始～終了）

・何を学ぶのか
・何をできるようにするのか
・何に気を付けて学ぶのか

・めあてを守れたか
・わかったこと
・次にやりたいこと
・思ったこと(感想)

学習時間の目安

<小学生：宿題＋自主学習>
（学年＋１）×１０分間
<中学生：予習・復習>
（学年＋１）時間

ノートの使い方

・下敷きを使う
・すきまなく書く
・ていねいに書く
・定規で線をひく

家庭学習で身に付ける力

「継続は力なり」
①毎日続ける力
②決められた時間をやりぬく力
③自分で少しずつ工夫する力

①授業の復習・予習

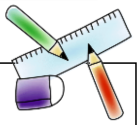
・低・中学年⇒**復習を毎日行う。**
（教科書・ノートを見直す、もう一度やってみる 等）
・高学年⇒中学校を意識して、**予習も行う。**
（新単元の音読、言葉調べ 等）
・中学生⇒授業の進度が早くなるため、**復習だけでなく予習をする習慣も身に付ける。**

復習	学習したことの習熟、定着を図る。
予習	授業の理解を助け、集中力を高める。

②反復学習（繰り返し練習）

・漢字や計算は、繰り返し練習することで定着を図る。
・学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わる。

③研究（調べる・まとめる）



・難しい問題に挑戦する。
・授業で学習したことを、さらに調べる。
・自分の好きなこと、知りたいこと、覚えたいことをいろいろな方法で調べる。
・言葉、図、表、絵等で工夫してまとめる。
・自分の考え（意見や提案）を書く。

④タブレットを使った家庭学習

・個に応じた学習や各教科の豊富な問題演習
<活用例>
・eﾗｲﾌﾞﾗﾘ…豊富な問題量・AIドリル
・Teams&Forms…課題配付・宿題・小テスト
・NHK for school…動画視聴・デジタル教材
・L-gate…学習アプリ・MEXCBT
・その他…調べ学習やword/Excel/PowerPoint
様々な教材の二次元コードの読み取り

＜授業＞と＜家庭学習＞の相乗効果で一人一人の力を高める！

<家庭学習>
・ノートの確認は、その日のうちに。
・励まし言葉を添える。
・学習場所や時刻、時間も確認する。
・見直し、間違い直しの習慣をつけさせる。
・情報モラルを身に付けさせる。
◎よい点を認め、クラスに広げる。
→ノートづくりのヒントへ

家庭学習も教師の見取りと支援が必要！

<授業>
・課題提示、板書、発問等の工夫
・理解や定着を確認する場の工夫